



# 20周年記念 MYポエム（青春の詩） コンクール入選作品紹介

社会奉仕団体「埼玉キワニスクラブ」主催による「MYポエム（青春の詩）コンクール」の表彰式が、2021年7月31日（土）大宮ソニックシティ市民ホールにて開催されました。応募総数1,260作品中、本校から埼玉県知事賞をはじめ9名が入賞しました。

受賞作品と受賞者を紹介します。

埼玉県知事賞	『空と心』	谷口りず	さん（2年）
埼玉県教育長賞	『とうめいな空箱』	永井美羽	さん（3年）
埼玉県市長会会長賞	『入学式と卒業式』	金子里菜	さん（2年）
テレ玉賞	『淡い空』	小谷恵璃	さん（2年）
ジェイコム埼玉・東日本賞	『残っただ毛』	岩井裕貴	さん（3年）
NACK5賞	『私の時間』	辻本彩華	さん（2年）
産経新聞社さいたま総局長賞	『トンネル』	新堀日彩	さん（3年）
埼玉新聞社賞	『地球の中身』	松本凌平	さん（1年）
高島屋大宮店賞	『空ノ下』	薮島 翔	さん（1年）

# 埼玉県知事賞

「空と心」  
2年 谷口 りずさん

嬉しい時に雨がふり

悲しい時に空は晴れ

さびしい時に雷が鳴り

怒っている時に雪がふる

あべこべのように神様は  
心と逆のことをしてくる

嬉しいと涙が出て雨がふるのか

悲しいと泣きすぎて空が晴れるのか

さびしいと少し嫌な気持ちになるから雷が鳴るのか

怒っていると落ち着きたくて雪がふるのか

嬉しい時に空が晴れ

悲しい時に雨がふり

さびしい時に雨がふり

怒っている時に雷が鳴る

空と心がつながっていたら

毎日たくさん天気が変わる

そしたら世界はどうなるのだろう

だから

明日も晴れるといいなあ



表彰式写真

## 埼玉県教育長賞

『とうめいな空箱』  
3年 永井 美羽さん

「あお」をつめこんで  
白が生まれる

大きくなって近くなる  
広い心で話してる

「あか」をつめこんで

黄金が生まれる

どこか分らない場所にいる  
通りすがりに歌ってる

「空」をつめこんで

白に黄に紺が生まれる

高くたかく 遠くとおく  
何も話さず離れてく

## 埼玉県市長会会長賞

『入学式と卒業式』  
2年 金子 里菜さん

手になじみあるふとんをどかそう  
鏡に映る自分におはよう

真っ白なパンにジャムを塗り

まだ固い制服にボタンをかけ

春風の指揮者が手を振り始める

並ぶ木が歌う

薄紅色の花が踊る

心臓に合わせて

みんなに合わせて

片手にある四角い機器に触れよう

画面に映る時間はもう朝

着慣れた制服に腕を通して

まだ冷えている風が顔に当たる

温かい日差しが身を包み込む

並ぶ木が歌う

若緑と薄紅色が混ざる花とつぼみも歌う

跡と砂が付いたくつから音が鳴る

心臓に合わせて

みんなに合わせて

## テレ玉賞

『淡い空』

2年 小谷 恵璃さん

私はよく空を見上げる

なぜだかはわからない

幼き頃鳥のようになりたくて翼がほしくて

自転車に風船をつけて飛ぼうとしていた

飛行機のような鉄の物体が飛べるのに

なぜ私は飛べないのか

鳥は私たちの行くことができない世界を飛んでいく

空の世界はどんなに美しいのだろう

私たちが生きている世界とは違った景色が

広がっているにちがいない

人は皆死ぬのが怖いと言う

私はそうとは思わない

なぜかって

それは年老いて死んだとき死んだ者の魂は

空へ飛んでいくとされているから

そうしたら叶うかもしれない

私の幼き頃の夢

でも私の今生きている世界にしかないものもある

それがなんだかはまだわからない

たしかに今いる世界は淡い空の色かもしれない

しかし太陽の光も見えてくる

私たちはこの世界にずっといつづけることは許されない

いつかは旅立っていく

いつも見上げている空も美しいが今いる世界も負けていない

旅立つその日まで私はこの世界の旅に出よう

今の世界もその後の世界も面白い冒険物語だ

## ジェイコム埼玉・東日本賞

『残っただ毛』

3年 岩井 裕貴さん

今日も家族が減っていく

今日も友達が散っていく

家族はみんな頭が無い

友達はみんな顔も無い

だけど下半身は残ってる

腰くらいまでは残ってる

頭があるのは自分だ毛

あ、たった今全身を抜かれたのは

自分だ毛

NACK 5 賞  
『私の時間』  
2年 辻本 彩華さん

私は道に立ち止まる

そして上を見る

丸い空に桜が描かれている

ピンク色の鮮やかな桜だ

ふと気がつく

人々の声・足音がある

私はどこへ行っていったのだろうか

私は窓に手をかける

そして上を見る

四角い空に鳥が貼ってある

黄色に緑の模様の可愛い鳥だ

そして癒される

ふと下を見ると

いつもの地面がある

私はどこへ行っていったのだろうか

さあ 明日はどこへ行く

ふう 明日をどこへ連れていこう

産経新聞社さいたま総局長賞  
『トンネル』  
3年 新堀 日彩さん

カタン コトン

トンネルの中に響く足音

カタン コトン

進むたび大きくなるセミの声

カタン コトン

今日着た物を昨日においてくる

カタン コトン

川の音がすずしく感じる

カタン コトン

コンクリートに乗った雨が鼻にささる

カタン コトン カタン コトン

## 埼玉新聞社賞

『地球の中身』  
1年 松本 凌平さん

おはようと言う人の後ろ側に  
おやすみと言う人がいる  
寒いからコートを着ようと思う後ろ側に  
暑いから服を脱いで海に行こう  
と思う人がいる  
ひなたぼっこをしている人もいれば  
その反対側で  
恐ろしいものから逃げている人もいる  
朝も夜も暑さも寒さも平和も恐怖も  
全てが同じ場所にある  
ここもむこうも  
みんなまわる地球の中

## 高島屋大宮店賞

『空ノ下』  
1年 薮島 翔さん

とても蒼い空の下  
道行く人に陽光差し込み  
暖かい太陽に照らされて笑い  
日の下で一日を過ごす  
ときには雨もあるけれど  
その雨が過ぎ去れば虹がかかる  
人の心もそれに似ている  
嬉しい時は太陽に照らされ  
悲しい時は雨に打たれ  
それが終わると、また嬉しくなり  
心に虹がかかる  
嬉しい時、悲しい時、辛い時、楽しい時、  
眠い時、ムカつく時、色々な天気がある  
あるけれど、僕らはそうして生きてゆく  
同じ空ノ下で